

平成18年10月から採用される新スコアリングシステムの概要

スコアリングシステム

- ・ラリーに勝った方が得点する。
- ・21点3ゲーム（2ゲーム先取）方式とする。
- ・20オールになった場合、先に2点リードした方をゲームの勝者とする。
- ・29オールになった場合、30点に達した方をゲームの勝者とする。
- ・ゲームに勝った方が次のゲームで最初にサーブを行う。

サービスおよびレシーブの位置

- ・自得点が偶数なら右から、奇数なら左からサービスを行う。
- ・ラリーに勝ったほうが次のラリーのサービスを行う。
- ・ダブルスの場合、サービスをして得点した場合のみ、左右が入れ替わることになる。
- ・ダブルスの場合、相手サーバーの対角位置のプレーヤーがレシーブを行う。
- ・サーバー・レシーバー・サービス位置の誤りについては得点は有効とし、誤りに気づいた時点で正すものとする。

インターバルとチェンジエンス

- ・リードしている方が11点に達した時に60秒のインターバルをとれる。
- ・ゲーム間は2分のインターバルをとれる。
- ・ゲーム間および、3ゲーム目の11点でのインターバル時にチェンジエンスを行う。

スコアシートの記入方法

- ・ゲーム開始時に、サーバーの行頭に「S」、レシーバーの行頭に「R」と記し、両者の得点欄に「0」を記入する。
- ・ダブルスの場合、プレーヤーごとに1行を使い、サーバーの行に得点を記入していく。
- ・ダブルスでレシーバー側がラリーに勝つと、前回のサーバーと異なるプレーヤーが新しいサーバーとなるので、得点記入行が入れ替わることになる。

サーバーとレシーバーの位置の見分け方（補足）

- ・サービス権が来たときのサーバーは前回と異なるプレーヤーとなる。
（前回得点記入行の反対）
- ・サービスの位置は得点が偶数なら右、奇数なら左。
- ・レシーブ側は前回サービスを行った時の得点から、左右のプレーヤーを判定し、相手のサービス位置の対角にいるプレーヤーがレシーブを行う。

その他の主な変更点

- ・線審の判定が明らかに誤りであった場合、主審は訂正することができる。
- ・インプレーでない場合、進行を妨げない範囲でアドバイスを受けることができる。
- ・試合中、コーチ等がコート近くで立つことは認められない。
- ・インターバルではコートを離れることができる。
- ・インターバル以外での汗拭き、給水は主審の許可が必要。
- ・シャトルの交換は主審が必要性を認めたときとする。
- ・サービス時のいわゆる「オーバーハンド」の規定は削除され、「シャフトが下向きであること」となった。
- ・サービス時にラケットを後方に引いて停止したら、すぐに前方への動きを始めないと「遅延行為」となる。
- ・他のコートからシャトルが侵入してきてもプレーの邪魔にならなければレットとしない。

注) 日本協会等からいろいろな資料が出ていますが、1枚で完結した説明となるようにまとめたもので、正式なものは9月に発行される新規則書をご覧ください。 (2006/7 浅見)